八百津祭

三つのエネルギーが
一つになる瞬間
木曽川を行き交った
過去の栄光が去来する

熱い思いが燃えたぎる。

YAOTSU MATSURI

「八百津祭り」（だんじり祭り）は、毎年四月の第二日曜日とその前日の土曜日の二日間、八百津の産土神（うぶすながみ）である大船神社を中心として行われます。祭日には船を形どっただんじり（長さ九m、巾三m、高さ六m、重量四t）三両がひき出され、町内を練り回ります。本楽（ほんがく）日には本郷組、黒瀬組、芦渡組のだんじりが町の中心地、役場前に勢揃いし、須賀組の獅子舞を先頭に大船神社に向かいます。美しく飾られた勇壮なだんじりは、どっしりと重く大きなかけ声とともにひっぱられ、男たちの巧みなテコ捌きで町並みを練り歩く姿は熱気にあふれ、別名"けんか祭り"とも呼ばれています。だんじりが八百津大橋（土曜日）、役場前（日曜日）で三両連なると一隻の大きな船となります。"陸の大きな船"の姿は、木曽川の舟運によって栄えた郷土の象徴として、大きな感動と、しみじみとした郷愁をよびおこします。このだんじりの始まりは元禄年間（一六八八～一七〇四）といわれ、以後、修繕や新調を重ねて、現在に引き継がれています。中部地方でも他に類を見ない規模の大きなだんじりで、釘を使わず藤づるで豪快に組み立てられただんじりを見るのも圧巻です。

2010.3/10,000